

“高き志”をもったグローバルな「トップエリート」を育成



西武学園文理小学校

古橋 敏志校長

これまで実施されてきた大学入試センター試験に代わり、2021年1月からは「大学入学共通テスト」が導入されています。そこで問われているのは〈脱・暗記型〉の学力、すなわち思考力と判断力、表現力です。

さらに、英語においては今後「読む」「書く」に加え、「聞く」「話す」能力、すなわちグローバル時代にふさわしいリテラシーが求められるようになることは間違いありません。

こうした流れに先立って、「英語のシャワーで世界のトップエリートを育てる」をキャッチフレーズに、2004年の開学以来、先駆的な教育を展開し、優れた成果を収めているのが西武学園文理小学校です。

「こころ」と「知性」「国際性」の3つを教育の柱に、未来を見据えた12年間一貫教育を実践する同校の魅力について、古橋敏志校長に伺いました。

国際競争が激化し、本格的なグローバル時代を迎える中で、次世代を担う子どもたちが将来、あらゆる場面で世界の人々と対等に伍していくには、深い「思考力」と的確な「判断力」、そして相手を説得できる「表現力」が不可欠です。こうした中、最高の学習環境と学習効果の高いカリキュラムデザインで「こころ」と「知性」「国際性」を培い、注目を集めているのが西武学園文理小学校（以下、文理小学校）です。

小・中・高12年間一貫教育による洗練されたカリキュラムデザイン

「本校は西武学園文理中学・高等学校とともに、12年間一貫教育で21世紀を担う『世界のトップエリート』を育成することを教育の目標としています。そのため、イートン校をはじめとする英国のパブリックスクールを

模範として、真のエリートに相応しい品性と豊かな知性・教養、自由と規律の精神を培うことを教育の理念としています」と古橋敏志校長は説明します。

これまでも、上級学校の西武学園文理中学・高等学校は東大をはじめ、早慶など難関大学に多数の合格者を輩出する東京圏屈指の進学校として人気を集めてきました。

こうした中、2024年度入試においても小学校卒業生1名が東京大学に合格という実績を残しました。小中高12年間一貫生が2017年度以降、毎年東京大学に合格しています。

古橋校長は「児童・生徒の一人ひとりの夢を叶えたいという、小・中・高等学校12年間にわたる一貫教育が結実し、花開いたため」と語ります。

その原動力の一つが、文理小学校の代名詞とも言える「英語のシャワーによるBUNRIイマージョン教育」です。

小学校から高校まで12年間一貫の系統的カリキュラ

ムのもと教えられる英語は、無理なく、無駄なく実践的な実力を養成します。授業は日本人の英語教員と外国人英語講師によるチームティーチングによって進められますが、1年生から外国人英語講師が話す自然な英語に親しむことで、耳と目、口、身体全体を使って語学力を習得することができるのです。

また、音楽・図工・体育・情報といった教科においても英語が使われるほか、登校時の挨拶や休み時間、お昼清掃時の放送、そして児童集会やイベント時の司会なども英語を使用するなど、1日中英語に触れる環境を用意しています。

「BUNRIイマージョン教育の狙いは、英語に対する抵抗感を小さくすること。そうすると、自分の英語でコミュニケーションすることができるようになります。パティオ(中庭)を使っただけの朝会や、終業時の連絡事項なども英語で行うので、集中して聞かざるを得ないわけです」と古橋校長。その成果は、小学校在学中に英検3級以上を全員が取得、準2級、さらには2級までも取得している児童が中学年にも数多くいることにも表れています。

さらに特筆されるのが、高学年で実施される文理小学校ならではの「海外研修」です。5年生にはイギリスの名門イートン校やケンブリッジ大学、オックスフォード大学などを訪れ、16日間にわたって、世界中の児童と英語で交流しながら共に学びます。また、6年生のアメリカ研修では、国連本部を訪問したり、ハーバード大学やMITでレクチャーを受けるなど、小学生の域をはるかに超えた活動を展開しています。この費用も基本的に学費に含まれています。

「海外での体験を通して、子どもたちは初めて英語が世界中の人々とのコミュニケーションを取るためのツールであることに感動します。それが学びへのモチベー



5年生イギリス短期留学～イートン・カレッジを訪問



6年生アメリカ研修～国連本部前での記念撮影(上)／現地校の生徒たちに、英語で日本文化を伝える(右)



ションにつながっているのです」と古橋校長は語ります。

もう一つ魅力的な取り組みとして、1年生から学校に隣接した研修センターで1泊2日の宿泊研修を体験させ、4年生では北海道旅行で初めての飛行機やホテル泊にまじませるなど、心と体の成長に合わせた宿泊研修を行い、自立と協調の姿勢を身につけさせていることです。常に集団で行動することで、リーダーシップの重要性に気づかせるとともに、その力を引き出し育てているのです。

自ら学び考える習慣を身につける豊富な体験学習・校外学習

AI(人工知能)やICTが社会のさまざまなシーンで活用される時代においては、知識をいかに多く身につけるかではなく、「課題を発見し、問題解決のための知識を選択する力」と、「その知識を活用し、自らの頭脳で考え、行動に移す力」がより求められています。

本校では低学年において、まず学ぶことの「楽しさ」を体感させるために田植え、稲刈り、サツマイモやジャガイモの収穫体験、工場や商店街見学などの、フィールドワークに基づいたアクティブラーニングを多く取り入れています。そして、子どもたちには体験したことについて必ず記録としてまとめたり、感じたことを書かせたりして、体系的な知識になるよう指導しています。また、本物にふれる教育を目指し、さまざまな分野のプロを学校にお招きしてお話し等をしていただく特別講義も実施しています。

教室ではタブレット端末(iPad)、プロジェクターを使用した独自の教材による授業も実施し、基礎事項の100%理解を目指しています。英語、情報の授業は1年生から6年生まで継続し、大きな成果を挙げています。

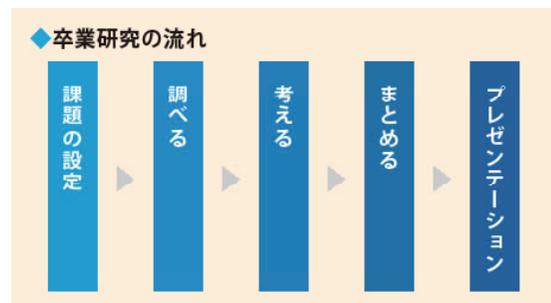


農作業体験

本校では、学校から歩いて5分ほどのところに田んぼや畑があり、地元の農家の皆様のご協力のもと、様々な農作業体験を行っています。ジャガイモ、サツマイモ、落花生、大根、お米（田植え～稲刈り～奉納）などを収穫するために、年間を通して畑に出かけます。自然の恵みやたくさんの人々への感謝の心を養います。

さらに、例えば算数では3年生から単元別に得意・不得意を考慮してクラスを編成した授業を実施するなど、全教科にわたって児童のモチベーションの向上に細心の注意を払っています。

また、5年生から2年間かけて行う「卒業研究」も文理小学校の特色の一つです。『蓄えた知識を活用しつつ、課題を発見し、問題解決のための情報を選択する力と、自らの頭で考え、行動に移す力が必要』と古橋校長は言います。「卒業研究」では、研究内容をスライドにまとめ、スクリーンに映しだし、子どもたち自らが解説します。その際、自分が何に興味を持ち、どう調べ、何を考えたのかについて、わかりやすく伝えるための高度な表現力を修得します。子どもたちは、これらの学び方（図式を参照）を通じて、次の時代を生き抜く力を身につけていきます。



日本人のアイデンティティを養い 教養ある「真の国際人」を育成

国際社会でリーダーシップを発揮できる人材となるためには、まず日本人としてのアイデンティティを確立させる必要があります。そのために、西武学園文理小学校では日本の伝統的な文化を正しく理解させることを重視し、礼儀・作法、マナーのほか、日本人として本来身につけるべきことの教育を実践しています。安心・安全に最大限に心を配り、廊下を通してすべての教室が見渡せるなど学校の「見える化」にも留意しています。

小学校卒業後は、一定の基準を満たしていれば文理中学校に進学することができます。中学校では、難関国立大学や医学部進学をめざす「アカデミックチャレンジクラス」と、高度な英語力と知的土台をベースに、グローバル・シチズンシップを備えた人材の育成をめざす「クリエイティブクラス」の2クラスに加えて、2025年度からクラブ活動やスポーツ・アートの国内外の大会出場など、活動と教科学習を両立する「スペシャルアビリティクラス（仮称）」がスタートします。そして、12年間の締めくくりとなる高校では、生徒自らが最適なクラスを選択できるよう2学科6クラスを設置し、生徒一人ひとりの志望大学現役合格に向けて、きめ細かな指導を徹底しています。

「本学では具体的な教育の目標を、『ここを育てる』『知性を育てる』『国際性を育てる』の3点に設定し、日々の教育活動の中で実践しています。『世界のトップエリート』の育成を目指す本学の教育方針に賛同される皆様のお子様の入学を心よりお待ちしております」と古橋校長はメッセージを送っています。



理事長
安達原文彦

平成16年4月に開校して以来、「英語のシャワーで世界のトップエリートを育てる」教育を続け、世界に向かって着実に歩んでまいりました。

西武学園文理小学校の教育方針は「すべてに誠をつくし、最後までやり抜く強い意志を養う」のもと、「ここを育てる」「知性を育てる」「国際性を育てる」ことを重点目標として教育実践を行っています。

人としての豊かな心、先人の知恵に学び創造する知性、日本人としてのアイデンティティをもって国際社会で活躍する力、これらすべてを身に付けて未来をリードすることができる人材＝世界のトップエリートの育成を目指しているのです。

子どもたちが将来、自分の能力を活かす場を世界に求め、グローバルに活躍できる力を身につけられるよう、学ぶ力を習慣化し、常に自らを進化させる意欲をもつよう指導し、保護者の期待や社会的要請に応えていくのが、西武学園文理小学校の使命です。